

## 第2章 第3次計画の評価

### 1 第3次計画の主な取り組み状況

令和2年度から令和6年度までの5か年計画として、健康おうしゅう21プランに掲げる「みんなで取り組む健康づくり」の基本理念を目指し、市民一人ひとりの食生活に関する正しい実践を支えるために、推進主体である家庭、教育・保育施設、学校、事業者、生産者、食育活動支援団体等がお互いに連携を図り食育を推進してきました。

計画の最終年度を迎え、令和6年度実績（一部5年度実績）で評価を行い、課題を整理して第4次計画につなげます。

#### (1) 第3次計画の概要

- 基本理念 「奥州の豊かな恵みで育てよう！こころと体！」
- 食育の柱 健康なこころと体づくり  
奥州の食を知り、次世代へつなぐ
- 推進主体 家庭、教育・保育施設、学校及び学校給食センター、PTA、地域食育推進関係団体、事業者、生産者、行政

#### (2) 指標の評価

各目標数値は下記判定区分の基準により評価します。

[達成係数の計算方法]

$$\text{達成係数} = \frac{\text{現状値（R5実績）と基準値（策定時H30）の差}}{\text{目標値（R6）と基準値（策定時H30）の差}} \times 100$$

[判定基準]

評価	達成区分	判定基準
◎	達成	達成係数 100以上
○	順調に改善	達成係数 50～99
△	やや改善	達成係数 1～49
×	横ばい、悪化	達成係数 0以下

目標の達成状況については、目標値を「達成」しているものが5項目、「順調に改善」が1項目、「やや改善」が1項目、「横ばい、悪化」で改善がみられなかったものが17項目でした。

(3) 成果指標

単位：％

計画の重点	項目		対象	基準値(H30)	目標値(R6)	現状値(R5)	評価
①栄養バランスの取れた食生活の推進	肥満の割合を減らす	3歳児健康診査 (奥州市の保健 R5 年度実績)	3歳児 男	39	35	40	×
			3歳児 女				
		学校保健統計 (R5 年度実績) ※小中学校は教育委員会学校教育課よりデータ提供依頼 ※高校生は市内各高校にデータ提供依頼	小学5年生男子	123	100	1758	×
			小学5年生女子	95	79	1364	×
			中学2年生男子	109	83	1270	×
			中学2年生女子	93	75	1349	×
			高校2年生男子	14.1	94	1365	△
	高校2年生女子	134	7.4	906	○		
	1日に2回以上主食・主菜・副菜が揃った食事をしている人の割合を増やす (R6 健康づくり食のアンケート)	20～39歳	386	49.0	718	◎	
		40～64歳	498	60.0	728	◎	
		65歳以上	68.3	78.0	822	◎	
	よく噛んで味わって食べている人の割合を増やす (R6 健康づくり食のアンケート)	20～39歳	46.7	56.7	592	◎	
		40～64歳	49.4	59.4	44.9	×	
65歳以上		63.5	73.5	62.0	×		
②地域ぐるみの減塩推進	うす味を心がけている人の割合を増やす (R6 健康づくり食のアンケート)		一般	70.5	74.0	66.0	×
	生活習慣病予防教室の開催 (市委託事業活動報告書)			147回	150回	47回	×
③朝食の大切さの推進	朝ごはんを食べない人の割合を減らす (R6 健康づくり食のアンケート)		3歳児	0.6	0.0	0.6	×
			小学生	1.2	1.0	2.0	×
			中学生	2.7	2.4	3.2	×
			高校生	5.7	5.1	8.7	×
			20～39歳	5.5	4.9	11.7	×
	朝食を家族と一緒に食べる回数を増やす (R4、R6 健康づくり食のアンケート)		小学生	71.7(R4)	週7回	68.6	×
	中学生	59.5(R4)	(100)	59.9	×		
④地元食材を活用した食育の推進	学校給食への地元食材の利用率 (教育委員会学校教育課)		小学生 中学生	43.8	50.0	33.9	×
⑤郷土食・行事食の継承	地域や家庭で伝えられている郷土食・行事食の普及回数(食育活動支援報告書、食生活改善推進員活動報告書)		一般	22回	24回	35回	◎

#### (4) 重点取り組みの評価と取り組みの紹介

##### ① 栄養バランスの取れた食生活の推進



##### 1) 肥満の割合を減らす取り組み

基準値に対し、高校生の男女ともに改善傾向であるものの、目標値には達成しておらず、3歳児、小学生、中学生も目標値を達成できませんでした。3歳児健康診査の様子から、夜型で起床が遅いなど、大人に合わせた生活リズムになっている家庭が増える傾向があります。小学生、中学生も、生活リズム・栄養バランスが乱れる生活が肥満になる原因の一つではないかと考えられます。

また、感染症対策により在宅で過ごす時間が増加したことで、全国的に身体活動が少ない生活を余儀なくされたことも、肥満の割合が増加した要因になっていると考えられます。

##### 2) 1日に2回以上主食、主菜、副菜がそろった食事をしている人の割合を増やす取り組み

健康づくりアンケートにおいて、1日に2回以上主食、主菜、副菜がそろった食事をしている人は、全ての年代において改善し目標値を達成しました。

妊娠期に開催しているパパママセミナー、母親教室での栄養指導、1歳6か月健康診査、3歳児健康診査等、若い層にも機会をとらえて継続的に指導してきました。健康づくりアンケートの結果20～39歳で成果指標の目標値を達成しました。しかし妊娠期には課題が残ります。妊婦へのアンケートは非妊娠時の状況を聞いており、妊娠前の若年層へのさらなる支援の強化が必要です。また、40～64歳は目標値を達成しているものの減少傾向であるため、健診事後指導の場等において支援を強化していく必要があります。

高齢期の年代は市管理栄養士が、出前健康講座や高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業等において、広く普及啓発してきたことが改善につながったと考えられます。

#### 年代別 主食、主菜、副菜のそろった食事をしている人の割合年次推移

##### 1日に2食以上そろっている人の割合

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
妊婦	82.1%	74.1%	77.9%	68.8%	69.1%	76.8%
3歳児	89.1%	89.5%	86.6%	85.7%	86.5%	89.9%
20～39歳	38.6%	未把握			64.8%	71.8%
40～64歳	49.8%				77.0%	72.8%
65歳以上	68.3%				81.3%	82.2%

資料：母子健康手帳交付時アンケート、健康づくりアンケート、3歳児健康診査

##### 毎食そろっている人の割合

	平成30年	令和4年	令和5年
小学5年生	54.3%	52.6%	49.6%
中学2年生	54.0%	44.2%	44.8%
高校2年生	47.3%	37.3%	39.4%

資料：健康づくりアンケート

## ② 地域ぐるみの減塩推進の取り組み

### 1)うす味を心がけている人の割合を増やす取り組み

成果指標の目標値は未達成でした。65歳以上の年代は他の年代と比較して心がけている人の割合が高いものの、年々その割合が減少していることが課題です。20～39歳、40～64歳は横ばいの傾向であり改善するための強化を図る必要があります。

忙しい毎日の生活で外食やテイクアウトを利用する機会が増える傾向です。塩分を意識するより、自分の好きなものを選ぶことが多く、うす味を心がけていることにつながらなかったと考えられます。

今後も市民に対し、出前健康講座、減塩を含めた管理栄養士おすすめレシピの配布など減塩の意識、行動変容を促す取り組みの強化が必要です。

年代別うす味を心がけている人の割合

	平成30年	令和4年	令和5年
20～39歳	62.4%	44.5%	54.4%
40～64歳	66.9%	63.0%	64.6%
65歳以上	82.3%	79.6%	75.7%

資料：健康づくりアンケート



### 2)生活習慣病予防のための料理教室の開催を増やす取り組み

食生活改善推進員（※）がレシピ集を作成し、生活習慣病予防の料理について地域や、地区センター等と協力し合い啓発に努めました。

近年、食生活改善推進員の高齢化、新型コロナウイルス感染症の流行による活動休止等が原因となり会員減少が加速し、マンパワー不足が課題となっています。地域での活動を継続して行っていく上で、市として食生活改善推進員の養成、育成について強化を図る必要があります。

奥州市食生活改善推進員協議会の生活習慣病予防事業活動数

平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
147回	115回	感染症対策で活動休止のため実施なし	36回 (感染症対策講じての実施)	36回	39回

資料：奥州市の保健

奥州市食生活改善推進員協議会会員数

平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
485人	441人	426人	370人	353人	289人

資料：奥州市食生活改善推進員協議会総会資料

※食生活改善推進員：「私達の健康は私達の手で」をスローガンに食生活を改善するボランティアとして活動をしている担い手。市で養成、育成している。

### ③朝食の大切さの推進

#### 1)朝ごはんを食べない人の割合を減らす取り組み

成果指標の目標値はどの年代でも未達成でした。小中高校生と年代が上がるにつれ、朝食の欠食が増える傾向であり、特に20～39歳の若い世代の欠食率が増加しています。母子手帳交付時に妊娠前の食生活についてアンケートをした結果、若い女性の欠食も増加しており、妊娠前の若い世代への啓発の強化が必要です。

朝食を食べない主な理由は「食べる習慣がない」「朝は忙しい」「食べるより寝ていたい」という回答が多く、忙しい生活の中で、朝食を食べることに対する優先順位の低さを感じます。

身体をつくるため、健康を維持するために朝食を食べることが重要であること、欠食が生活習慣病につながることを、子どもの頃から理解する機会を増やす必要があります。

年代別朝食欠食率の年次推移

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
妊婦 (母子手帳交付時の非妊娠時の状況)	9.8%	10.6%	10.1%	12.3%	14.9%	15.4%
3歳児	0.6%	1.2%	0.7%	0.7%	0.4%	3.2%
小学5年生	1.2%	未把握			0.2%	2.0%
中学2年生	2.7%				3.2%	3.2%
高校2年生	5.7%				7.4%	8.7%
20～39歳	5.5%				12.5%	11.7%
40～64歳	4.7%				7.8%	9.5%
65歳以上	0.4%				1.0%	5.6%

資料：母子健康手帳交付時アンケート、3歳児健康診査、健康づくりアンケート

(3歳児朝食は週3日以下、その他の年代は殆ど食べないと回答した割合)

#### 2)朝食を家族と一緒に食べる(共食)回数を増やす取り組み

成果指標の目標値は達成できませんでしたが、家族や誰かと一緒に食べる「共食の大切さ」の取り組みを強化し、教育・保育施設、学校にのぼり旗を配布して啓発をしました。「毎月21日は家族そろって朝食デイ」の推進を関係部署と連携し取り組みました。

健康づくりアンケートの結果「家族と一緒に食べる日がほぼ毎日」と回答した児童の割合が減少している上に、「家族と一緒に食べる機会がほとんどない」と回答した児童の割合が増加傾向です。

1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査で、幼児期に共食の定着ができるよう啓発してきましたが、現代の忙しいライフスタイルの中で、家族との共食の機会は減る傾向です。

今後も、教育・保育施設、学校と連携し共食の大切さについて啓発していくことが重要です。

朝食を家族と一緒に毎日食べる人の割合

		平成 30 年	令和 4 年	令和 6 年
小学 5 年生	ほぼ毎日食べる	75.3%	71.7%	68.6%
	ほとんど食べない	4.0%	10.9%	12.1%
中学 2 年生	ほぼ毎日食べる	71.3%	59.0%	59.9%
	ほとんど食べない	3.0%	19.0%	18.8%

資料：健康づくりアンケート

④ 地元食材を活用した食育の推進

学校給食への地元食材の利用率向上の取り組み

成果指標の目標の評価としては、利用率が減少し目標値を達成できませんでした。地元食材を食材別に見ると米は 100%、牛肉、卵、大豆製品はほぼ 100%に近い利用率です。しかし、農作物は生育が天候に左右されるため、不安定な供給になることや、生産者団体の高齢化で配達ができないこと等の課題もでてきています。

市内学校給食施設においては、「奥州っ子給食」を実施する等、地元食材の利用を優先して提供しており、市内の生産者団体を優先に、不足分は地元の青果店より仕入れるという最善の努力をして、今後も地元食材を活用した給食を提供していきます。

学校給食市内食材使用比率



	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年
米を除く 29 品目の利用率	47.5%	38.8%	33.9%
米を含めた場合の利用率	66.8%	63.4%	62.0%

指標：おうしゅう地産地消推進計画

⑤ 郷土食・行事食の継承

地域や家庭で伝えられてきた郷土食・行事食の普及回数を増やす取り組み

成果指標の目標値は達成できました。食育活動支援登録事業（※）は、平成 30 年度には登録数 9 件でしたが、令和 6 年度には登録数 12 件に増加しています。長年にわたり登録している各団体、個人の活動が年々創意工夫され、郷土食や行事食の継承において充実した内容になっており、教育・保育施設、学校での活用につながっていると評価しています。

※食育活動支援登録事業：市内で食に関する出前講座等支援を行っている施設や団体、個人を市で登録し、教育・保育施設、学校で活用してもらうための事業

## 2 ライフステージごとの主な取り組みの内容

### (1) 妊娠期・乳幼児期(0歳～6歳)

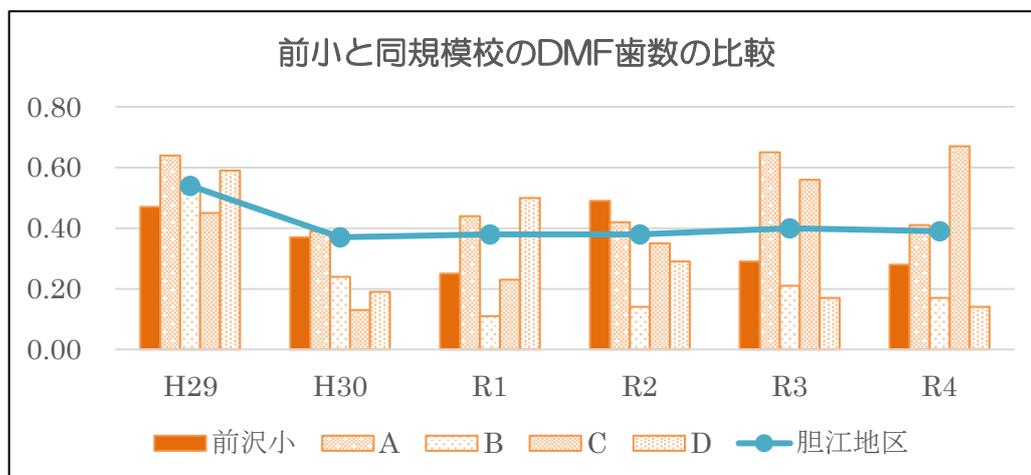


#### <教育・保育施設の主な取り組み>

- 園の農作物の栽培、収穫を通し「育てて収穫する食育体験」で野菜を残さず食べる心を育むことができました。
- 給食で食べる楽しさ地産地消の大切さなどについて食育指導を行いました。
- 教育・保育施設や健康増進部門と連携し、作って食べる楽しさを学ぶためクッキング体験を実施しました。
- 講話や園だより、給食だよりなどで食育啓発を行いました。
- 生活リズムや食事マナーなど各園で計画した食育事業を実施しました。
- 個別指導を行い適正体重や栄養バランス等について指導を行いました。

#### <食育活動支援登録者・食生活改善推進員の主な取り組み>

- 登録者が農業体験や調理実習、講話等の食育支援を行いました。
- 食生活改善推進員によるクッキング教室、食育カルタ等を利用した食育支援を行いました。
- 食生活改善推進員が子育て支援センターでのおやつ提供、地区振興会が開催した健康まつりや市保健事業への協力をしました。
- 幼児期のう歯有病者率において前沢地域が高い傾向が続いているため、市のモデル事業「さわやか歯っぴい事業」で食生活改善推進員が協力しました。歯に良い食事やおよつ普及啓発を行い、飲み物に含まれる砂糖量がわかる媒体を作成し、地区センター等に設置し虫歯予防の啓発を実施しました。前沢地域のう歯有病者率が改善傾向です。



DMF歯数：1人平均永久歯におけるむし歯の本数

## ＜行政の主な取り組み＞

- ・ 食育活動を支援する団体・個人を登録し、教育・保育施設、学校等に活用していただくよう啓発を行いました。
- ・ ホームページ等に食育通信を掲載、配布をして子育て中の食支援を行いました。
- ・ 4か月児健康診査において離乳食の指導と試食体験を実施しました。
- ・ 離乳食の情報をホームページに掲載し、子育て世代に活用してもらいました。
- ・ 教育・保育施設の栄養士と連携し栄養士おすすめメニューを作成し、ホームページに掲載し啓発しました。
- ・ 子育て世代を対象とした出前講座で栄養講話や個別相談を行い、日ごろ抱えている悩みを相談できる場として活用してもらいました。
- ・ 1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査において個別栄養指導を行いました。
- ・ 3歳児健康診査において、肥満度15%以上の児の保護者へ個別相談を実施しました。
- ・ 母親教室やパパママセミナーで、妊娠期における栄養バランスの取れた食事や朝食の大切さについての栄養講話を行いました。
- ・ 子育て支援センターにおいて、親子の調理実習や食育指導を行いました。

3歳児健康診査での肥満度15%以上の児の割合

	令和3年	令和4年	令和5年
3歳児健康診査受診人数	607人	742人	651人
肥満児 (15%以上の割合)	28人 (4.6%)	33人 (4.4%)	26人 (4.0%)

### 重点項目の取り組みの状況

#### ① 乳幼児からの生活習慣病予防の強化

教育・保育施設と連携し肥満児に対する指導を行いました。

(R5年度実績 対象46名 相談結果 継続指導16名(34.8%) 相談終了29名(63.0%))

#### ② 食に関する情報発信の強化

子育て支援センター、ホームページ等を活用し食に関する情報発信を行いました。

「栄養士おすすめ子ども喜ぶ人気メニュー」「おうしゅう食育だより」はホームページに掲載中

#### ③ 食に関する体験機会の増加

学校や各種関係団体と連携した調理実習等体験できる「おうしゅう食育教室」を開催し、継続的に実施(R5年度実績 稲瀬わかば園 1回 5歳児 17名参加、悠悠館 1回親子 11名参加)

#### ④ 妊娠期からの食の重要性を体験

母親教室、パパママセミナー、訪問等で栄養講話、栄養相談を実施

(R5年度実績 パパママセミナー 年6回 78組 156名参加、母親教室 年6回 39名参加)

#### ⑤ 食育活動支援団体、個人登録活動(R5年度実績 5団体 51回、6個人 23回)

#### ⑥ 幼児健診での朝食、栄養バランス等の個別栄養指導の実施

(R5年度実績 1歳6か月児健康診査 552名、3歳児健康診査 651名、肥満度15%以上の児の保護者への指導 26名)

## (2) 学齡期・思春期(7歳～19歳)



### <学校>

- 郷土料理、おやつ作り等を学ぶクッキング体験を行いました。
- 児童、生徒へ栄養教諭や家庭科教諭等による食育指導を行いました。
- 地元食材を使った給食を提供し地産地消を推進しました。
- 学校給食を生きた教材として活用し、児童、生徒が健やかに生きるための基礎を培うことを目的として次の7つの項目について繰り返し指導をしました。
  - ① 健康の保持増進 ② 望ましい食習慣 ③ 明るい社交性と協同の精神
  - ④ 自然への感謝 ⑤ 働く人々への感謝 ⑥ 伝統的な食文化の理解
  - ⑦ 生産・流通消費の理解
- 毎日の給食の内容を給食施設ごとにブログで発信しました。
- 食育月間や学校給食週間にあわせて、学校や給食だより等で家庭での食育を推進しました。
- 健康課題のある児童生徒、保護者へ栄養教諭、養護教諭と連携しながら個別相談指導等を行いました。

### <生産者・事業者>

- 奥州市6次産業化・地産地消推進協議会において、奥州市産食材を活用した「奥州っ子給食」を提供しました。
- 産直等での地産地消を推進しました。
- 学校給食を通して児童と農畜産物生産者と交流会を実施しました。

### <食育活動支援登録者・食生活改善推進員>

- 登録者が教育・保育施設、学校から依頼を受け調理実習や講話等の食育支援を行いました。
- 食生活改善推進員がクッキング教室や食育カルタ、食育紙芝居等を活用し食育支援を行いました。またレシピ集を作成し地域で普及を行いました。

#### 奥州市食育活動支援登録事業

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
登録数(団体・個人)	9	8	12	11
年間活動数(回)	19	17	17	73
参加人数(人)	683	473	545	1,660

資料：食育活動支援登録者からの活動報告書

## <行政>

- ・ 市内で食育活動を支援する団体・個人を募集して登録し、教育・保育施設、等に活用してもらう食育活動支援登録事業を行いました。
- ・ 関係部署と連携をとりながら食育推進事業を行いました。
- ・ 食育の出前健康講座を実施しました。
- ・ 栄養教諭等と連携し栄養士おすすめメニューを作成し、ホームページに掲載し啓発しました。

### 重点項目の取り組みの状況

#### ① 生活パターンに合わせた食育指導

栄養教諭が、朝食の取り方、スポーツと栄養、集中力と学力アップの食生活、食のSDGsなど決めたテーマに沿い食育指導を実施

(R5年度実績 市内小中学校での栄養教諭による食育指導 27校 203回)

#### ② 食に関する体験機会の増加

・ 学校や各種関係団体と連携した調理実習等体験できる「おうしゅう食育教室」を開催(R4年度実績 小山わんぱく少年隊 1回4~6年生 17名参加)

・ 全世代にひろげよう健康寿命延伸プロジェクト事業

食生活改善推進員による食支援

(前沢高等学校 1回生徒 152名、水沢第一高等学校 1回生徒 30名)

### (3) 働き盛り年代(20歳~64歳)

#### <食育活動支援登録者・食生活改善推進員>

- ・ 登録者が野菜や果物の効能や食べ方についての紹介を行いました。
- ・ 食生活改善推進員が県や市からの依頼で、脳卒中予防対策の減塩普及活動や料理教室を開催しました。
- ・ 食生活改善推進員がレシピ集を作成し、地域で普及を行いました。

#### <生産者・事業者>

- ・ 奥州市6次産業化・地産地消推進協議会では、市内の地産地消の取り組みを市民に広く周知するため、地元新聞紙の広告欄を活用してPR活動を行いました。
- ・ 市内、産直等の店舗で地産地消を推進しました。



## <行政>

- ・生活習慣病予防教室、出前健康講座において適正体重の計算方法や栄養バランスの説明、野菜の摂取量を増やすよう集団指導を行いました。
- ・特定健康診査等の受診者に対し、生活習慣病予防教室、特定保健指導や健診結果個別相談会、家庭訪問等での食事や生活面の指導を行いました。
- ・市内の弁当店に協力を得て、市管理栄養士おすすめ減塩レシピを入れた弁当の普及を行い、減塩に取り組める環境づくりに努めました。
- ・産直や地区センター等に協力をもらい管理栄養士おすすめ生き生きレシピ（ヘルシー、減塩レシピ）を配架しました。

### 重点項目の取り組みの状況

#### ① 子どもと一緒に食に関する経験の機会を増やす

- ・小学校において保護者の給食試食体験を実施
- ・農政課では家庭向けに、市産食材の関心を持ってもらうように生産者へのインタビュー動画を作成し、学校給食だよりに二次元コードを添付し聴講できるように発信

#### ② 生活習慣病予防を目的とした食事の普及強化

- ・生活習慣病予防教室で適正体重等の指導の実施  
(R5年度実績 水沢会場 前期 17名、後期 21名、胆沢会場 9名)
- ・ヘルシーレシピ、減塩レシピ等をホームページや協力店等で啓発  
(R5年度実績 21施設 6,835枚配布)



## (4) 高齢期(65歳以上)

### <食育活動支援登録者・食生活改善推進員>

- ・地域において食育活動支援団体登録者や食生活改善推進員が地元の食材を活用したバランス食の普及を行いました。
- ・食生活改善推進員が脳卒中予防の減塩普及活動や料理教室を開催しました。
- ・食生活改善推進員がレシピ集を作成し、地域で普及を行いました。

### <生産者・事業者>

- ・奥州市6次産業化・地産地消推進協議会では、市内の地産地消の取り組みを市民に広く周知するため、地元新聞紙の広告欄を活用してPR活動を行いました。
- ・市内、産直等の店舗で地産地消を推進しました。

## <行政>

- 各種栄養改善事業や生活習慣病予防教室、出前健康講座において栄養バランスを指導しました。
- 産直や地区センター等の協力施設で管理栄養士おすすめ生き生きレシピ（フレイル※）予防、ヘルシー、減塩レシピ）を配架しました。
- 食生活改善推進員と連携し減塩普及活動を行いました。
- 特定保健指導や健診結果個別相談会、家庭訪問等での指導を行いました。
- 長寿健診の受診を促し、受診者のうち低栄養ハイリスク者に対しては家庭訪問による栄養指導を実施しました。

（※）フレイル：加齢により身体的、精神的に様々な機能が衰え

ぜいじゃく  
脆弱な状態のこと



- 低栄養予防の講話を出前健康講座やよさってくらぶ※）で行いました。
- 口腔機能維持、向上のため出前健康講座やよさってくらぶで講話を実施しました。

### 重点項目の取り組みの状況

#### ① 食からのフレイル予防

- よさってくらぶでフレイル予防の食生活普及の実施
- 低栄養ハイリスク者への家庭訪問、手紙等の支援の実施  
（R5年度実績 低栄養予防講話 市内 20 団体、低栄養ハイリスク者 4名）

#### ② 減塩食普及の強化

- 市管理栄養士の考案した減塩レシピを弁当等に提供していただく協力店を募集し、モデル的に実施（江刺ごっつお家 R4年度実績 12 回 451 食）
- 減塩レシピをホームページ、協力店で配架（R5年度実績 年 5 回 2,850 枚）

（※）よさってくらぶ：市民が主体となって、町内会や地域のサロンや友人などで気軽に集い「いきいき百歳体操」で介護予防に取り組むグループのこと。